

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ「からだところがおとなになるということ」
- 2 対象 6年児童
- 3 専門医 太田 信彦 医師
(ゆめクリニック)
- 4 実施月 11月
- 5 内容(キーワード)
二次性徴と命の始まり
思春期の心と体
人の性には違いがある
性被害



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

- 有効だった
有効でなかった

<その理由>

*6年生という体と心の変化を感じ始める思春期に、人との違いへの偏見や心配はいらぬというメッセージを受け、児童間の関わり方や距離の取り方について考える良い機会となった。二次性徴を迎え始める自分達も、命の始まりに関わる体という自覚を持たせる意味があった。現代の性認識についての諸問題も取り上げていただき、性とは何か考える問題提起となった。

②保健教育における校内連携について

- 有効だった
有効でなかった

<その理由>

*外部講師による性教育の有効性を校内計画に位置付け、どの学年も系統的に命についての学びができるよう、この事業を通じ、性教育を推進する良い機会となった。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

- 有効だった
有効でなかった

<その理由>

*市内中学校で継続的に性教育講演講師である産婦人科医と連携を取り、小学生対象の内容に合わせて講演いただき、外部講師としての説得力があった。

〔教科やその他の指導との関連性〕

○4年保健、5年理科・保健との学習内容に繋がる内容であった。思春期の異性への関心や友達との付き合い方、性の多様性や性被害防止につながる生徒指導上にも役立つ内容だった。

〔受講者の感想など〕

- 男性女性と決まりきった性別でなく、色々な性についての考えや個人差があることを聞いて安心し、性の多様性について考えることができた。
- 異性だけでなく同性との関わり方、距離感などについて学ぶことができた。
- 専門の医師に命の始まりの話を知ることができてとても勉強になった。

